

品目分類：草地飼料，技術分類：品種

飼料用トウモロコシの二期作（夏まき）用奨励品種「夏空W」		情報分類	普及情報
〔要約〕飼料用トウモロコシの新しい奨励品種「夏空W」は，生草・乾物・TDN収量が多く，耐病性に優れる品種で，県で初めての二期作（夏まき）用の奨励品種である。			
畜産試験場企画環境飼料部草地飼料研究室		連絡先	0995-48-2189
普及対象地域等	県内の酪農家・肉用牛農家	普及見込面積等	200ha

〔背景・ねらい〕

本県における飼料用トウモロコシの栽培面積は約2,142haで春夏作の最も重要な飼料作物である。トウモロコシを基幹とする栽培体系は春作にトウモロコシ，冬作にイタリアンライグラス等の牧草類を組み合わせた栽培体系であるが，温暖な気候を生かし，春作の後作として再びトウモロコシを栽培する二期作（夏まき）栽培の取り組みが県内各地域で始まっている。二期作栽培のTDN収量は従来のトウモロコシ＋イタリアン栽培体系の約1.3倍程度で，粗飼料増産や飼料費低減をめざす農家にとっては，有効な栽培方法であり，収量を左右する品種の選定は重要である。しかしながら，現在，二期作（夏まき）用の奨励品種は選定されていない現状にあるため，優良品種を選定する。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 「夏空W」の早晚性は晩生で，二期作（夏まき）専用品種である（データ略）。
- 2 初期生育は良好，稈長が高く，生草収量が極めて多い（表1）。
- 3 乾雌穂収量は，夏まき用品種の中では並でTDN収量は多い（表1）。
- 4 病害に対する耐病性は強である（表1）。
- 5 ワラビー萎縮症に対して耐性を有する（図2）。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 栽培方法は県栽培基準に準じ，栽植密度は600～700本/a程度である。
- 2 本県において発生が確認され，拡がりをみせているワラビー萎縮症に対して耐性を有しており，当該発生地域においては特に有望である。
- 3 除草剤ワンホープ乳剤に対する耐性が強く本剤の使用が可能である。
- 4 「夏空W」は雪印種苗の育成品種である。

〔具体的なデータ〕

表 1 夏まき用トウモロコシ年次別成績 (平成19~23年)

品種・系統名	播種抽出	稈長 (cm)	折損 (%)	倒伏 (%)	病害程度(1-9) ¹⁾			罹病率 ²⁾ 黒穂	生草収量 (kg/a)			乾物収量 (kg/a)			乾雌穂割合 (%)	TDN量 (kg/a)	収穫熟期	
					ごま葉	すす紋	さび		茎葉	雌穂	合計	茎葉	雌穂	合計				
夏空W	19	9/21	257	0.0	0.0	2.3	2.3	5.0	0.8	611	160	771	111	74	185	40.0	127	糊後
	20	10/14	219	0.0	0.0	3.0	1.0	3.0	0.0	535	146	681	104	44	148	29.8	98	糊中
	21	9/27	248	0.0	0.0	2.0	1.0	2.0	0.0	603	169	772	109	76	185	41.1	128	糊後
	22	10/7	252	0.0	0.0	2.0	1.0	2.3	0.0	652	161	813	109	60	169	35.3	114	糊中
	23	10/13	228	10.0	0.0	2.0	2.0	1.0	0.0	559	135	694	98	46	144	32.0	96	糊中
	平均		241	2.0	0.0	2.3	1.5	2.7	0.2	592	154	746	106	60	166	35.6	113	
P30D44	19	9/19	251	0.0	0.0	3.0	2.7	7.0	16.3	490	143	632	98	66	164	40.0	113	黄初
	20	10/12	207	0.0	0.0	3.0	3.0	5.0	10.0	450	152	602	91	52	143	36.3	97	糊中
	21	9/27	242	0.0	0.0	3.0	1.0	4.0	12.5	481	179	660	103	79	181	43.5	127	糊中
	22	10/5	235	0.0	0.0	3.0	1.0	4.0	12.5	468	151	619	94	62	156	39.4	107	糊後
	23	10/10	220	21.7	5.0	2.0	1.0	4.0	15.0	419	131	550	81	49	130	37.6	96	糊中
	平均		231	4.3	1.0	2.8	1.7	4.8	13.3	462	151	613	94	61	155	39.4	108	
SH9904	19	9/20	247	0.0	0.0	2.0	1.7	3.3	0.0	552	129	680	113	62	175	35.4	118	黄初
	20	10/12	196	0.0	0.0	2.0	2.0	3.0	0.0	415	118	533	84	40	125	32.3	83	糊後
	21	9/26	230	0.0	0.0	2.0	1.0	2.0	0.0	499	134	633	102	62	164	37.7	112	糊後
	22	10/4	236	0.0	0.0	2.0	1.0	2.0	0.0	477	124	601	92	48	140	34.3	94	糊後
	23	10/12	213	1.7	0.0	2.0	1.0	2.0	0.0	450	130	580	88	46	134	34.2	90	糊中
	平均		224	0.3	0.0	2.0	1.3	2.5	0.0	479	127	605	96	51	147	34.7	100	
なつむすめ	19	9/20	240	0.0	0.0	1.0	3.3	2.3	1.3	493	193	685	87	89	176	50.5	126	糊中
	20	10/10	195	0.0	0.0	2.0	3.0	3.0	0.0	400	167	567	81	52	133	39.1	92	糊後
	21	9/27	213	0.0	0.0	2.0	1.0	2.0	0.0	423	183	606	83	83	167	50.0	119	糊中
	22	10/3	230	0.0	0.0	2.0	1.0	2.0	0.0	534	195	729	95	72	167	43.2	116	糊後
	23	10/10	208	0.0	0.0	2.0	1.0	1.0	0.0	420	153	573	75	56	131	42.9	91	糊中
	平均		217	0.0	0.0	1.8	1.9	2.1	0.3	454	178	632	84	71	155	45.2	109	

注) 1. 被害程度に応じて無しを1, 甚を9とする評点法で, 観察による。 2. 罹病率の割合 (%)
 3. 発芽日: 平成19年8月5日, 平成20年8月18日, 平成21年8月8日, 平成22年8月17日, 平成23年8月17日
 収穫日: 平成19年10月30日, 平成20年11月25日, 平成21年11月25日, 平成22年11月25日, 平成23年11月28日



図1 「夏空W」の草姿



図2 フラッピー萎縮症感受性品種(左)と抵抗性品種「夏空W」(右)(初期生育時, 10~12葉期)

〔その他〕

研究課題名: 自給飼料生産総合推進事業

予算区分: 県単

研究期間: 平成23年度(平成19~23年度)

発表論文等: 平成19年度~23年度 農業開発総合センター畜産試験場成績概要書